

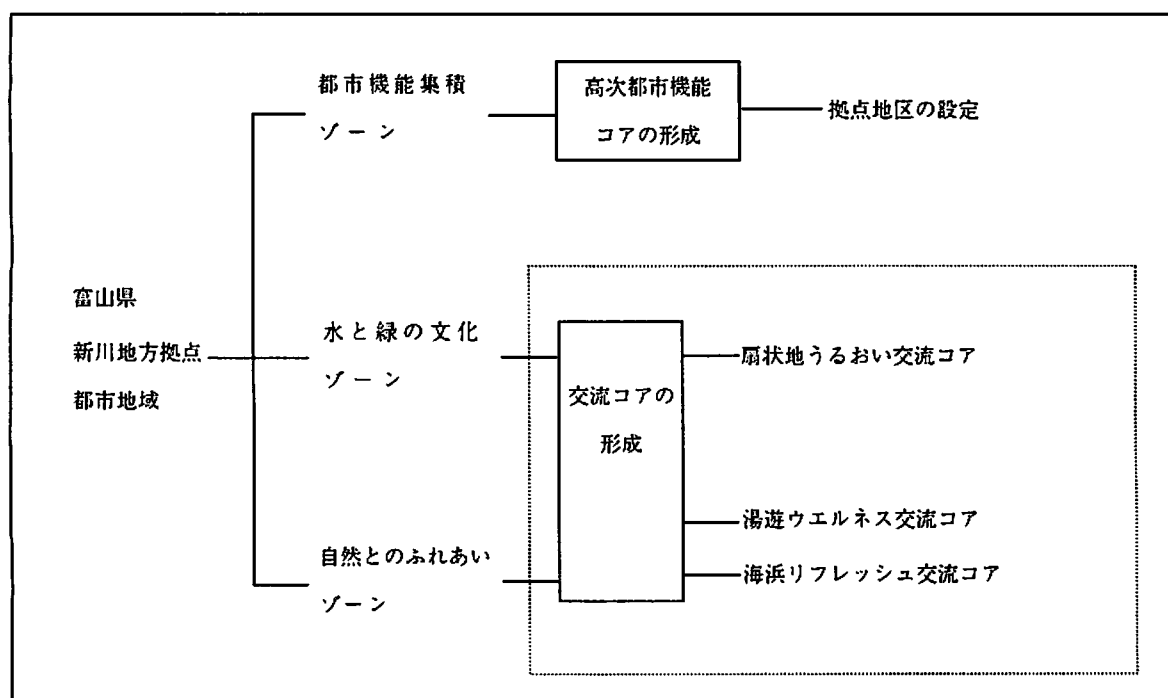
4. 整備の方向

1) 地域内の機能分担

地方拠点都市地域の整備に当たっては、各市町が個性と特性を活かして、一体的な地域整備に取り組む必要があり、このような観点から本地域を地域の特性や開発の可能性、土地利用の方向などを勘案し、「都市機能集積ゾーン」「水と緑の文化ゾーン」「自然とのふれあいゾーン」の3つに区分し、それぞれの地域特性にそった整備、保全を進めていくこととする。

また、各ゾーンにおいて、ゾーンの機能を先導・牽引する区域として、都市機能集積ゾーン内には「高次都市機能コア」を設け都市機能のさらなる集積を図る。また、水と緑の文化ゾーン及び自然とのふれあいゾーン内には「交流コア」を設け文化・スポーツ、観光・レクリエーション等交流機能の集積を図るとともに、高次都市機能コアと密接に連携し、拠点都市地域全体の発展を牽引する基地としての役割を担わせていく。

各ゾーンやコアの役割の分担及び整備等の方針は次の通りである。



<ゾーン>

□都市機能集積ゾーン

北陸新幹線新黒部駅（仮称）や北陸自動車道魚津インターチェンジ・黒部インターチェンジに近く交通利便性が良く、古くから商業を中心に発展し、各種行政機関等が設置されている魚津市と、工業を中心に発展し、国際的な観光産業と国際企業等を活かした国際交流が盛んに行われている黒部市において両市の既存の都市機能の集積を活かし、地域の発展を図るゾーンとして、「都市機能集積ゾーン」を設定する。

このゾーンでは商業・業務、芸術・文化、医療・福祉並びに国際交流機能など都市機

能の整備を推進するとともに、身近な居住環境や文化教養等諸機能も整備し、都市的な生活を享受できる空間を創出する。

本ゾーンの役割を中心に担う区域として、魚津市及び黒部市の市街地を中心に「高次都市機能コア」を形成する。

□水と緑の文化ゾーン

都市機能集積ゾーンを取り巻く平野部及び丘陵部については、雄大な北アルプスを背景に、豊富な水と緑を大切にしながら、うるおいに満ちた文化的な生活空間の整備を図るゾーンとして「水と緑の文化ゾーン」を設定する。

このゾーンでは、扇状地から育まれる豊かな水資源の保全に努め、職・住一体となった生産基盤の整備を進める一方、農村景観、自然景観と調和し、地域居住者の定住条件の向上を図る。また、上・下水道、医療・福祉など生活基盤整備を進める。このため、丘陵部に点在する森林公園や城址、牧場、運動公園などの各種レクリエーション施設を東部山麓道路で結び、一帯の緑地空間が、地域住民のゆとりを育む憩いの里となる様に整備する。

本ゾーンの役割を中心的に担う区域として、入善町の市街地周辺に「扇状地うるおい交流コア」を形成する。

□自然とのふれあいゾーン

新川地域の特異な自然環境を形成してきた山間部、海岸部から成るゾーンを「自然とのふれあいゾーン」として設定する。ここでは、中部山岳国立公園や朝日県立自然公園に指定された地域の豊かな自然環境や景観の保全に十分配慮しながら、自然にふれ、学び、憩える場としての空間の創出を図る。

具体的には、中部山岳国立公園の中にあって、国際的にも第一級の評価を受ける豊かな自然と景観を擁する黒部峡谷の利用の促進を図るとともに、立山黒部アルペンルートと合わせて、中部山岳国立公園内での雄大な周遊ルートの形成を促進する。また、宇奈月温泉周辺では観光客のニーズに対応した温泉保養施設やアウトドアスポーツ、レクリエーション地の形成を図る。

さらに、海浜部においては、海浜の自然を活かしたキャンプ場やマリンスポーツが楽しめる場としての整備を進める。

このような本ゾーンを先導、牽引する区域として、宇奈月温泉街周辺に「湯遊ウエルネス交流コア」、朝日町宮崎境海岸周辺に「海浜リフレッシュ交流コア」を形成する。

<コ ア>

■高次都市機能コア

都市機能集積ゾーンの核として、中心都市である魚津市及び黒部市の市街地を中心に、本地域全体に対して十分な求心力を持ち、かつ本地域の自立的発展を牽引するために、

必要となる商業・業務、娯楽、芸術・文化等の都市機能の集積を図るとともに医療・福祉、国際交流機能などの充実を図る。

それぞれの、地区のもつ特性に基づき、高次な都市機能の集積を図りながら重点的な投資を行うため「魚津港周辺拠点地区」「新黒部駅（仮称）周辺拠点地区」「三日市周辺拠点地区」の3つの拠点地区を設定する。

■扇状地うるおい交流コア（入善町市街地周辺）

水と緑の文化ゾーンの核として、散居の形態・景観や、扇状地の豊かな自然環境の保全と生活文化を維持しながら、健やかな生活を営める空間の形成を図る。

このため、町の中央部に位置する北陸自動車道入善PAからJR入善駅を結ぶ南北線を基軸に、公園、スポーツ・レクリエーション機能、文化機能、業務機能、商工業・サービス機能等を集積させることにより、豊富な水と緑を大切にしながら、うるおいに満ちた文化的な生活空間の整備を図る。

また、中心市街地において、水と緑の空間を再生し、都市空間の再整備を進めるとともに、交流やにぎわいを創出する拠点施設の整備を図り、文化的生活が享受できる環境をつくる。

■湯遊ウェルネス交流コア（黒部市宇奈月温泉街周辺）

自然とのふれあいゾーンの核として、黒部峡谷、宇奈月温泉など豊富な山岳観光資源を積極的に活用し、心のやすらぎのある滞在型観光地の形成を図る。

このため、宇奈月国際会館等との連携を図り、ビジネス客等の宿泊ニーズに対応する宿泊施設の整備を支援する等、広域的な観光拠点のみならず、国際的な交流・健康づくりの拠点として、個性ある温泉市街地の形成に努める。

また、通過型から滞在型観光地への転換を図るため、クアハウスを備えた施設の整備を図るとともに、これらと既存の温泉地とを結ぶ周遊ルートを整備する。

■海浜リフレッシュ交流コア（朝日町宮崎境海岸周辺）

自然とのふれあいゾーンの核として、周辺の鹿島樹叢や城山公園等との周遊性にも配慮しながら、海岸部において良好な水質を有し、ヒスイの原石が打ち上げられる宮崎境海岸の自然味あふれる海洋、海浜資源を活かした海浜型レクリエーション地の形成を図る。

このため、海水浴シーズンのみならず、四季を通して海浜型のレクリエーションが楽しめるよう、宮崎境海岸に、ヒスイについての紹介や周辺施設のインフォメーション機能等を有するビジターセンターの整備を図る。

また、観光客等の流入促進を図るため、パーキングエリアと一体化した複合拠点や、国道8号沿いに大規模駐車場を備えた道の駅等の整備を推進する。

2) 総合的なネットワークづくり

地域の特性を最大限に活かし、適切な機能分担と有機的な連携により、地域でだれもが快適で便利な生活が営める地方拠点都市地域の形成を図る。

そのため、地域外とのアクセスを容易にする国道8号等の幹線道路の整備を推進する。また、地域内においては、インターチェンジや新幹線駅への基幹道路等の整備を推進するとともに、拠点地区相互間、拠点地区等と周辺地域を結ぶ幹線道路等の整備を推進する。

また、高度情報化に対応した情報ネットワークづくりに取り組むとともに、水文化ネットワークの形成などに向けた広域的ソフト事業の推進を図る。

そして、これら一体的な取り組みにより、地域内の総合的なネットワークの整備を図る。

<機能分担ゾーニング>

